

世界遺産ニユースレター

富士山を 世界文化遺産に！



『駿河三保之松原』(富士三十六景 歌川広重 作)〈所蔵 山梨県立博物館〉

具体的作業によいよ着手！

平成20年4月から「富士山本宮浅間大社」(富士宮市)など4件の構成資産候補について、国文化財指定に向けた発掘調査などを開始し、また、「小浜池」(三島市)をはじめとする8件の構成資産候補について、適切に保護・管理・活用するための保存管理計画の策定に着手していきます。

『富士登山』にたとえると、いよいよ合目から「登山スタート!」といったところですよ。

今後の状況については、ニュースレターなどを通じてお伝えしていきますので、登録に向け引き続きのご理解とご協力を、お願いいたします。

News List

- ◎富士山の自然的価値
(静岡県学術委員会 副委員長 土 隆一)
- ◎シリーズ「構成資産候補の紹介」『富士山』
- ◎富士山世界文化遺産シンポジウムから
- ◎世界遺産用語解説「真実性(真正性)、完全性」

富士山の自然的価値

富士山の誕生：富士山は日本のほぼ中央の太平洋岸に、駿河湾の北岸から聳え立つ独立峰で、山頂の標高は3776mと日本の最高峰を占める。今からおよそ10万年前、愛鷹火山の北西側、小御岳火山の裾野に富士山は誕生し、主として山頂火口から玄武岩質のテフラ（火山灰など）と溶岩をくり返し多量に噴出し、小御岳を覆うようにそれらが積み重なって、成層した円錐型の火山（コニーデ）がつくられた。

富士山の形態：富士山はどこから眺めても同じように美しい形をした円錐型の火山で、山頂の火口は山体のほぼ中央に位置し、山体の傾斜は山頂付近では30度近いが、中腹より下では7〜5度以下の緩やかで長い裾野がひろがる特徴的な地形を示す。また、山体の体積は1200立方kmと日本の火山の体積の平均40立方kmの30倍の大きさに達する。



静岡県学術委員会副委員長
静岡大学名誉教授理学博士 土 隆一

富士山の火山活動

富士山は陸上の火山であるのに安山岩質ではなく、ハワイなど海洋島の火山と同じ玄武岩質の火山活動を続けてきた。初期の段階では大量のテフラによる爆発的な噴火を続け、関東の武蔵野台地の赤土の多くは富士山の火山灰とされる。溶岩や火山泥流の活動もあつたようで、初期の活動を「古富士」と呼んでいる。およそ1万年前になると、山頂付近の火口から大量の玄武岩溶岩を噴出し、御殿場付近を除くすべての裾野まで流下させた。これを「新富士」「旧期溶岩流と呼んでいる。その後もテフラの噴出、溶岩の流出など数百年毎に活動を続けてきたようで、側火山の数も70以上と日本では最も多い。最近の活動がテフラによる1707年宝永の爆発的噴火である。

富士山の形成された位置

富士山は地球上の限られた位置に分布し、富士山も近くの火山と共に1つの帯のように連なっている(図)。北海道から東北地方、それに富士山帯の火山を含めて東日本火山帯と呼ぶが、最も太平洋に近い火山を連ねると弧状の線となり、これを火山フロントという。これは太平洋側に3つある海溝とも並行するし、太平洋側の地震帯もその間に並行する。太平洋プレートは西へ移動し、本州ののるユーラシアプレートの下に沈みこむが、そこが日本海溝、伊豆小笠原海溝ということになる。沈

み込んだプレートはときに地震を起こしながらマントル上部に達し、その一部が溶融してマグマが生じる。ところで、よく見ると南海トラフは伊豆のあたりで8の字に折れ曲がっている。そして、伊豆半島の化石と古地磁気の研究から、昔フィリピン東方の海底火山群であつた伊豆半島はプレートと共に北進し、やがて本州に衝突し、沈み込めずに、南海トラフを折り曲げ、駿河トラフと相模トラフをつくつたが、今なお南南東から本州を押し続けているらしいことがわかってきた。

富士山の側火山が北北西〜南南東に並んでいるのも南南東から加えられる力を表している。富士山の位置を見ると、プレートの三重会合点とも、トラフの折れ曲がりの頂点とも言えるところにある点の特徴的である。富士山の大きさを考えると、大量のマグマが供給されたとしか考えようがない。それは南海トラフの折れ目に位置するため、そこが裂け目となって大量の玄武岩マグマが供給されたと考えてはどうであらうか。

富士山の湧水

富士山麓には多くの湧水が知られ、なかでも、楽寿園小浜池、柿田川、湧玉池、白糸の滝、忍野八海などは有名で富士五湖も昔から湖底の湧水が知られている。しかも規模の大きな湧水はいずれも新富士旧期溶岩流の末端にある。玄武岩の溶岩は噴出

時に極めて高温なので、表層と下底は急冷されて破砕状となり、中心部はゆっくり冷えて緻密に固まる。このような溶岩層が何層も重なって厚く流れると、富士山高所の降水は破砕部分に入り込み、溶岩層間にはさまれた被圧地下水として末端から押し出されるように湧き出すことがわかってきた。白糸の滝はまさにそれを現している。現在のところ、標高1000m以上の降水が10年位かかって裾野に湧き出すと考えている。湧水は被圧地下水なので水温・水量もほぼ一定で、洪水も湧水も起こらず、2000年ほど前から裾野の人々に農業・生活用水、信仰上の身の浄め、など広く恩恵を与えてきた。

以上、富士山の自然的価値をいくつか述べてきたが、富士山はその姿も裾野の湧水も周囲の人々に満遍なく喜びを与えてきたことを考えると尊敬の念を禁じ得ない。

図) 富士山の位置



※→ 富士山の位置

シリーズ 構成資産候補の紹介

【第1回】

今号から、構成資産候補(静岡・山梨両県共通…3件、静岡県側…25件)をピックアップして、その概要などを紹介します。
第一回目はもちろん『富士山』です。



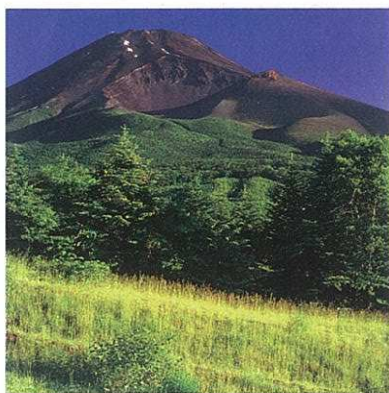
春(御殿場市)

概要

富士山は、玄武岩でできた成層火山で、小御岳火山の麓に約10万年前に誕生し、古富士火山、新富士火山の2世代にわたる噴火活動によって現在のようないびつな円錐形を形づくってきました。宝永4年(1707)に大噴火し宝永火口をつくり、東側に火山灰による広大な火山荒原を形成しました。これ以降噴火活動は、休止しています。

雄大な独立峰

現在に近い形になったのは、約1万年前。広い裾野から立ち上がる独立



夏(裾野市)

峰は、単独で1000mを超えることが稀といわれる成層火山として並外れているだけでなく、崇高で優美な姿であり、人々に畏敬の念と感動を与えてきました。

このような富士山は、日本人の美意識と深く関係するばかりでなく、人々の心にさまざまな影響を与え、伝説の舞台となり、詩歌・絵画・小説などの主題、数々の写真家の被写体となるなど、現在に至るまで、時代を越えて芸術活動と密接なかわりを持っており、日本の文化創造において重要な役割を担ってきました。

荒ぶる山

平安時代には活発に火山活動を行い、約300年前の江戸時代の宝永年間にも大噴火した活火山で、広い範囲に被害をもたらしました。

このような火山活動や、山体自体の姿により原始古代から信仰の対象とされてきました。火山活動が活発な平安時代までは、『遥拝』の対象であり、噴火を鎮めるための浅間神社が建てられました。火山活動が収まってきた平安時代末期には、修験道の道場となり、室町時代以降には、『登拝する山』として広く知られるようになり、山麓には、登拝のための「御師」や「坊」が整えられました。江戸時代中期には江戸を中心に富士講が盛んになり、多くの人々が登拝するようになりました。



秋(富士宮市)

多様な自然の山

【地形・地質】

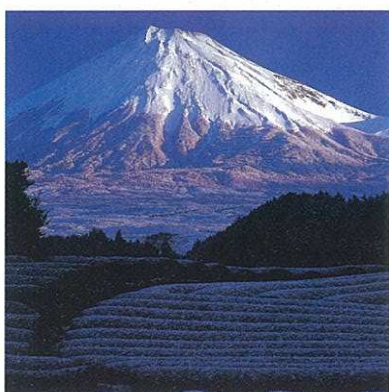
富士山の火山噴出物は玄武岩質であり、その溶岩は、粘性が低く、流れやすいため、広範囲に広がり、広い裾野の形成とともに多くの溶岩洞穴や溶岩樹型などの特殊な地形を生み出しました。

【植 物】

2500m以上の「高山帯」から700m以下の「丘陵帯」まで植物の分布が形成されています。

【動 物】

鳥類は、生息種類数、個体数、繁殖種類数が多く、地理的分布からみても特異な地域となっています。また、土壌動物、洞窟動物などに多くの新種が発見されており、昆虫類の稀少種や分布上の新知見なども得られています。



冬(富士市)

富士山世界文化遺産シンポジウムから

平成20年2月9日、「富士山世界文化遺産シンポジウム」を開催（於 御殿場市民会館大ホール）しました。

御殿場市内の萩原保育園児の「ふじさん」の合唱のあと、基調講演、特別講演そしてパネルディスカッションと続きました。以下では、その一部を紹介します。

基調講演

「世界遺産紀伊山地の霊場と参詣道」

「心身再生の郷づくり」

更谷慈禧氏（奈良県十津川村長）

世界遺産登録を機に、役場主導の村づくりからの転換を図った。人間と村の自然が織りなす文化、歴史精神風土を伝えていこうと「語りべ」を養成した。十津川村にある二つの参詣道を歩いてもらうことで心身再生できる村にしようとして戦略を立てた。ただの山道が「世界の宝」となり、「十津川ブランド」も生れた。世界遺産登録は、村の自己成長を促す修行の道であった。



特別講演

「世界遺産の心」

五木寛之氏（作家）

富士山はただ高い山というだけでなく、私たち日本人の中に、支えのような役割を果たしている。本当に日本人の心の山であると言っている支えはない。富士山を世界文化遺産として認めさせるためには、富士山に対する日本人の尊崇の念を絶対に切り離さないで、そのことを世界に伝えることが一番大切なことである。



パネルディスカッション 「富士山と文化」

松本宏氏（横浜国立大学 名誉教授）

人が自然に対して働き掛けることで作り出された「富士山の文化」を世界文化遺産と考えたほうがいい。自然と共存し、働き掛ける文化を続けることが大切だ。

芹澤早苗氏（元富士山測候所職員）

冬の富士山は神聖で、一面雪に覆われる。山頂からの素晴らしい眺めによって、戦争は愚かなものだと思われかされる。自分としては、富士山は既に世界文化遺産だと思っている。

更谷慈禧氏

参詣道は歩かないと価値が分からないが、富士山の価値は見るだけで分かる。富士山を美しいと感じる心の裏には日本人の心があり、富士山を拝む気持ちになる。



◎世界遺産用語解説

「真実性（真正性）」、「完全性」

世界遺産に登録されるためには、その資産が世界遺産として「ふさわしい価値」（顕著な普遍的な価値）を持っていることを示す必要があります。

そのために証明するのが、その資産の「真実性」と「完全性」です。それぞれの定義は、次のとおりです。

《真実性》形状、意匠（工夫、趣向、デザイン）、材質、用途など、その資産が持っている本来の価値が損なわれることなく維持されていること。

《完全性》その資産の顕著な普遍的価値を示すために必要な要素が全てが、適切な範囲で保護されていること。



アブ・シンベル神殿

「世界遺産条約」誕生のきっかけとなった遺跡。1960年代、ヌビア遺跡群（アブ・シンベル神殿など）がアスワン・ハイ・ダム建設により水没の危機にさらされたが、ユネスコの呼びかけに応じた50ヶ国以上の支援により、解体・移築され、水没の危機を免れた。

「アブ・シンベルからフィラエまでのヌビア遺跡群」として1979年世界文化遺産登録された。